

- ◆課題：「メディアの発達によるソーシャル・キャピタルの変質」
- ◆研究テーマ：「リスク社会におけるメディアの発達と公共性の構造転換～ネットワーク・モデルの比較行動学に基づく理論・実証・シミュレーション分析」

<研究代表者>

遠藤薫：学習院大学法学部／教授



<専門分野>

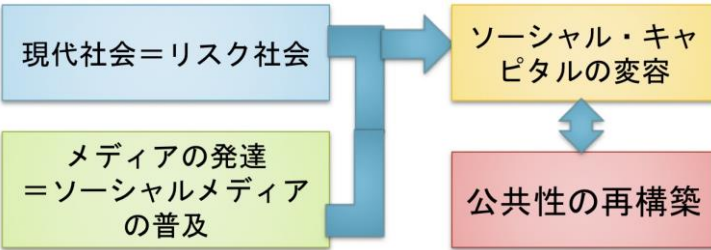
理論社会学 情報社会学 シミュレーション

<Webページ> <http://www.kaoruendo.com>

<研究目的、概要>

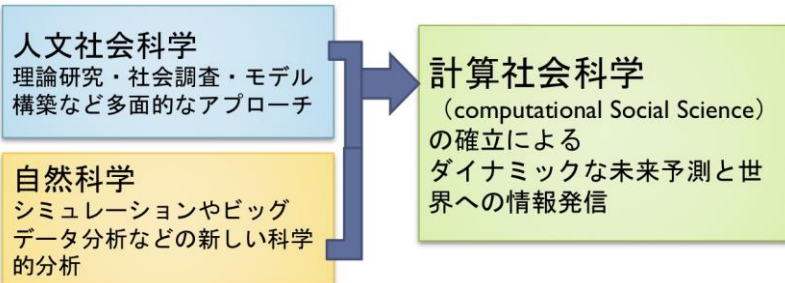
研究目的

「リスク社会」とも呼ばれる現代において、急速に発展するメディアは、ソーシャル・キャピタルの形成と変容に大きな影響をおよぼしている。本研究は、ソーシャル・キャピタルおよび公共性概念を根本から再検討し、重層的メディア環境におけるその変質を解明しつつ、「公共性」の理念のもとにソーシャル・キャピタルの健全な形成の条件を明らかにする。



人文学・社会科学的な理論研究・社会調査・モデル構築などだけでなく、シミュレーションやビッグデータ分析などの新しい分析法を採用することにより、これまでになかった客観的状況分析と、未来予測および研究結果の動的表現を実現し、グローバル世界への情報発信を行う。

研究方法概要



<異分野間での研究プロジェクト運営>

異分野間の緊密な連携研究を推進するため、頻繁に研究会を開催し、国際的に著名な研究者を招聘して、国際シンポジウムを開催した。さらに、若手研究者によるワークショップを開催し、本領域の研究機運を盛り上げた。

【課題点】異なる分野では、問題意識や研究組織のあり方、方法論、用語など、すべてにわたって相違しており、連携はきわめて困難に感じられた。また、メンバーの機関も、国私大、民間とバラバラであるため、出張などの規則に違いがあり、混乱が生じた。地域も全国に散在しており、日程調整も難しかった。

【成功要因】しかし、対面で会い、違和感があっても互いの専門的研究を披瀝し合う研究会を1～2ヶ月に1度は開催し、議論を続けることで徐々に相互理解が深められた。また、異分野融合の実践が進んでいる国際学会に参加したり、世界的に著名な研究者を招聘した国際シンポジウムを頻繁に開催することで、プロジェクトの目的に向かって緊密な連携が実現した。さらに、われわれのプロジェクトに関心をもつ多くの若手研究者がシンポジウムに参加してくれたので、オープンなワークショップを開催、毎回100人以上が熱心な議論を重ねた。

<研究成果、波及効果等>

本プロジェクトは、きわめて多くの学問的成果をあげただけでなく、最新の国際的潮流である計算社会科学に関する、人文学・社会科学研究と自然科学との学際的交流を深めるためのプラットフォーム創設に貢献した。

【論文】

研究期間中に、プロジェクトメンバーによる国内外への論文掲載100本以上【主な出版】

2017年 K.Endo et al.(eds), 2017, Reconstruction of the Public Sphere in the Socially Mediated Age, Springer

2018年 遠藤薫編著『ソーシャルメディアと公共性』東京大学出版会

2018年 国際学術誌Journal of Computational Social Science (Springer)創刊【研究の主な展開】

2017年 計算社会科学研究会の創設 (<http://css-japan.com>)

若手研究者たちの計算社会科学に関する研究交流の場を拓いた。

2018年 神戸大学に計算社会科学センター CCSS(Center for Computational Social Science)を設立。研究拠点を形成。プロジェクト終了後、これらの場を拠点に創造的研究計画が展開しつつある。

